


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第24回 身につかない着物着付け

がっかりしてしまった。

数ヶ月間袂に手を通さないブランクの後、先日久しぶりに着物を着てみた。

悲しいかな、着付けのこつを全く忘れてしまっていた。

歌舞伎のチケットが手に入り、やはり着物を着ずして何を着られようと重い腰をあげた。

昨年の最後の着付けから、すでに10ヶ月が経っていた。

前の晩から着物と小物を準備し、ハンガーにかけ完璧に着るはずだった。

当日少し寝坊はしたものの40～50分のゆとりがあり、着付けが始まった。

細かいことは忘れても下着から着物までは問題なく進んでいったが、さて帯で苦労が始まった。

今考えてみて、まず二重太鼓にするはずが一重になっていた。

細部のこつとそのための準備を忘れたため、(ただでさえ後ろに腕が回らないのに)帯の仕上げがまったくゆがんでしまった。

ああ・・・時間が迫ってきた。

汗・汗・汗・・・。

猫の手が借りたい、そんな時娘たちが帰ってきた。

よかった、しかし帯締めまで終わり手をはなすとただらとお太鼓がくずれおちた。

隣にすむ友人を呼び出し、やっと出かけることができた。

やれやれ・・・。

観劇中そして幕間、トイレにたつて襟元のバランスの悪さを見てびっくりした。

同席の友人はほめてくれたが、私の心は反省・反省だった。

歌舞伎という古典芸能のため、着物姿の方がちらほらと座っていた。

廊下やトイレでの目線が気になる。

もうこんな気持ちで、出かけたくない。

明日からまた着付けを復習して、今度は胸を張って歩きたい・鏡を見たいとつくづく思った。

昨年ご指導いただいたS先生、まことに申しわけない・・・。

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第25回 肥える

出会うたびに、言われる。

ピアノ教師 <お久しぶりです。かつぶく良くなりましたね。>

知人 <貫禄がつかえましたね。>

患者さん <先生、少し丸くなりました？>

友人 <ねえ、太った？>

友人 <かつぶく良くなって、ちょうどいいね？？？>

男友達 <これ以上太らないほうがいいね。>

確かにここ1年、体重は増加していた。

夏になり身体の線が明らかになり、昨年のスカートがやけにちょうど良くなったり、きつくなったり。

多忙にまぎれてついついテニスコートに行く回数が減り、スポーツジムも何やかやと理由でお休みしていた。

逆に会合や会食は増え、断ることは稀だった。

これだけ外部の反応があると、私の闘志にも火がついた。

痩せると言うより、健康のために身体をつくろうと思った。

時間が空くと、近くのプールに車を走らせる。

正味1時間程度だが、水中ウォーキングと水泳。

久しぶりに水のなかで過ごし、びっくりした。

かなり肺活量が減っているようだ。

クロール50mを過ぎると、酸素欠乏になってくる。

これが海だったら、苦しくなっておぼれることだろう。

仕事の後も、再びスポーツジムにも通いだした。

それぞれのトレーニングマシンにより、筋肉の部分々への負荷が実感できる。

少しずつ脂肪が燃焼し、筋肉が発達しているのか？

頭の中に、イメージ映像が浮かんでくる。

私の意志は固い。

しかし時におこるハプニングによって生活パターンの変化が、決めたはずのプランを抹消してしまう。

昨春は息子の突然の帰国があったし、この春は短期～長期の旅行で日常生活が中断した。最近何人かの患者さんから言われる（古くからの方たちだ）。

<ますますお元気になって。>

<お美しくなって。>

私を、勤務医の頃から知っている方たちだ。

<えっ、本当？>聞き返したくなる。

現在は重い身体を除けば、精神状態はいたって安定しているし健康状態も良好だ。

仕事のやりがいもある。

更に身軽になれば、もっと小回りがきくのであろうか。

身近な友人は、恐れおののく。

もっと元気になったら・・・と。

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved

[クリニックのご案内](#)[診療内容と方針](#)[料金表](#)[スタッフ紹介](#)[女性外来コラム](#)[みえこ院長エッセイ](#)[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第26回 母に想う

どんなに年をとっても、母親は醜くはならない。

昔聞いた言葉である。

子を思う母、母を思う子、その関係から湧き出た愛情がそんな視界を見せるの
だろう。

現実に目の前にいる母は、年をとり皮膚はたるみ、その皮膚はシミでおおわれ
ている。

しかし子にとっての老婆は、その姿の向こうに優しく若く美しくかぐわしい母
としてうつっている。

2年前、母が入院した。

時々会ってはいたが、確かに母は毎回変化していた。

ついに実家でくらす母の介護に、家族が悲鳴をあげた。

初めて面会に行き会った母の姿に、私は涙がとまらなかった。

食事を自ら食べる気力のうせた頬骨は、驚くほどに突き出していた。

50センチメートルほどの背たけの人形を、大切そうに抱いた母はきっと人生
で一番幸せだった頃を夢みていたのだろう。

そして自分の食事を、その可愛い口に運んでいた。

母の顔からは微笑みは消え、回りの人もまったく認識できないようにうつろな
目をしていた。

この状況を私が受け入れるまで数日かかった。

案外、早かったと自分でも思った。

その後は冷静に母を見ることができた。

訳のわからない話も、こちらから解釈をして返事をする。

あれから2年の歳月が流れた。

食欲はしっかりもどり顔の色艶はよくなったけれど、相変わらず目はうつろで
最近では私の名前を呼ぶこともなくなった。

ここ数年の記憶の糸が、ぷつぷつと切れてしまったらしい。

しかし、この上なく上品な老婆である。

今は悲しいと思うこともなくなった。

あるがままの人間の姿を受けいれ、このような経過をたどって人生を全うする
のかと。

自分が冷酷な人間に思えないでもない。

職業柄、生と死を客観的に受け入れやすいのかも知れない。

母にとって毎日の生活は、記憶のない一瞬の感覚の積み重ねなのだろう。

自分の将来を悲観するでもなく、過去のプライドに苦しめられるでもない。

いつでも自分の一番幸せな一瞬に、もどることができる。

だから私は、その一瞬にむかって話しかける。

<今日は、何をしていたの？>と。

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第27回 あこがれの職業

昔は海外にあこがれていた。

海外に出かける仕事にもあこがれ、スチュワーデスや旅行会社の添乗員にもなりたいとおもった。

華やかな芸能界もおさない少女には、夢の世界のような存在だった。

女優や流行歌手になれたら、どんなに素敵か。

夢は夢のまま時は過ぎ・・・あれから何十年もたった。

そして飛行機の中や団体旅行であこがれの職業のひとつと何度か接するようになった。

飛行機の移動時間の苦痛を考えなければ、スチュワーデスや添乗員はいろいろな世界を見聞きできる楽しい職業だ。

たぶん多くの女の子の、あこがれの的だろう。

しかしあの長いフライト時間と身体のむくみや自由のきかない狭い機内を考えるとゾーとしてしまう。

狭い席から通路に出るときの煩雑さ、お仕着せの食事やあまりに近すぎるテレビの画面。それが嫌ならファーストやビジネスに乗ればよいか・・・

しかしなんとエコノミー料金とのばかでかい差。

最近、若い添乗員さんにお世話になった。

若いだけに可愛い笑顔と、若いがしかし細かい配慮と態度。

そしてしっかりとしたお勉強にささえられた歴史や遺跡のお話。

ハスキー（風邪？）ではあるがよく通る滑らかな声。

おかげで楽しく気持ちよく、数日間を過ごすことができた。

3年前も確か、若い添乗員さんにお世話になった。

なんとこの二人の印象は、随分似ていた。（旅行会社は異なるが）

二つのツアーには、幾分いやなハプニングがあったが、それが嫌な印象として尾を引かないのはやはりそういった方達の存在なのだろう。

旅の道案内人としての大きな役割をはたしてくれている。

彼女は、言った。

たくさんの方が辞めるので、添乗員の門はそんなに狭くないと。

<やっぱり大変なんだ、この仕事は。>

一方、あこがれのスチュワーデスはいつの間にか好ましくない存在として私の中に位置してしまった。

それは個人的な嫌な経験から、そうせざるを得なかったのだと思う。

しかしここ数年、穏やかな物腰の落ち着いた方と知り合いになり、いつの間にかスチュワーデスに対する偏見がうすれてしまった。

有難うございます、Aさん。

やはり私には、地に足ついたこの職があります。

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第28回 スタッフと共に

平成16年12月にここ板橋に開院してから、そろそろ3年になろうとしている。

スターターメンバーと、開院間もない頃に約束した。

<患者さんが一杯来るようになったらグアムに行こう。グアムに行けるよう、頑張ろう>

みな（私が一番燃えていた）、その日が来るのを夢見て一生懸命頑張った。

一からの開業は、時々批判の声もありそのつど改善を重ね今日のような形になっていった。

当初一日、20人の患者さんが来ることを願った。

いまは一時間10人の患者さんがみえる。

えっ、そんなに？

と思うかも知れないが、結果だけの方もいれば細かくお話を聞かないと治らない病気も方もいる。

裏をかえせば、お話を十分に聞き共感するだけで半分以上治ってしまう病気もある。

話は納得いくまでするのが、私の方針だ。

話が長くなりそうになると、スタッフはそつと隣の部屋に消える。

問診、呼び込み、お話、診察、お話、採血、注射、会計と予約。

5～6人のスタッフは、私を中心として歯車のようにときどき・・・ガタガタしながら回って一日が過ぎてゆく。

あ、うんの呼吸が知らない内にできつつある。

正直、クリニックは一杯の状態だ。

診療時間の延長も考えた。

しかし診療内容に疲れがでたら、患者さんに申し訳ない。

Drを増やすのも良いが、私の診療方針が統一できなくなる。

やはりこのままの形態で行こう。

一日6時間、多少の延長はありだが、この時間に集中して納得のゆく診療を続けよう。

昨年（平成18年10月）念願のグアムツアーに、皆で行けた。

ヤッター・・・

直後、スタッフの一人が<来年は、どこに行きましようか？>

そして今年も10月になった。

皆は、期待して待っている。

楽しみに働いている、家庭や育児とは別のイベントを。

じゃ、今年は香港で中華料理でも食べましよう。

いつまで続くかわからないけれど・・・。

来年は、韓国で骨付きカルビかな？

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第29回 スタッフ旅行を終えて

火曜日の午後8時に成田空港に帰ってきた。

<お疲れ様。>と、挨拶をかわした皆の顔は疲れてはいたもののスペシャルな時間を過ごした後の満足顔でもあった。

香港への旅行。

未就学児から小学校2年生までの子供4人と大人11人の団体だ。

初日は、ベッドに入るだけの時間しかないほどの深夜の到着だった。

翌朝は子連れでのディズニーランド組と観光組に別れ、早朝よりの出発となった。

観光組はかなりの強行だったが、主な香港の名所を回ることができ満喫できた。

ディズニーランドも大満足でへとへとになるほどの強行？だったようだ。

その翌日はみなフリータイム、思い思いの行動をとった。

そして夜は恒例の食事会、15人で円卓を囲み大小入りまじり騒がしく時間は流れていった。

3泊は瞬く間にすぎ、それでも4日目は出発の午後便までしっかり自由行動を楽しんだ。

次回は国内旅行でもいいかな？

しかし海外は行けそうでなかなか行けないのが現状だ。

子供が小さかったり、夫の仕事が忙しかったり家族での海外旅行は少し荷が重い。

職場旅行という大義名分があればこそだ。

だから私は皆をひっぱって海を渡る。

忙しい外来をこなしてくれるスタッフ。

ボランティアのセミナー活動に文句もいわず参加してくれるスタッフ。

休憩も十分とれない毎日。

勤務の穴も、お互い都合をつけて埋めてくれる。

スタッフの日ごろの動労に対する、感謝を含めた私からのささやかなプレゼントである。

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[\[e-mail\] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp](mailto:dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp)



みえこ院長エッセイ

第30回 私のライフワーク、土曜セミナー

開院して数カ月後から、毎月一度院内で患者さん対象にセミナーを始めた。当初は低用量ピルの普及をめざし、あわせて女性性器疾患のセミナーだったが、アンチエイジング、冷え、頭痛と内容が多様になっていった。途中から、セミナーの後半にアロマと健康というテーマで前半の話に関連した内容でアロマの専任の講師による講演もはより充実した内容になっていった。

聴講された方の感想はすこぶる良好であったが、開催日が土曜の午前ということもあり仕事やレジャーでなかなか参加できない方も多かった。

ただ内容によってはパートナーや家族の同伴もあり熱心さが伝わってくることもあった。

すでにセミナーは、28回をむかえた。

開院以来順調に患者数は増え、予約もすぐには取れないこともある。(申しわけない限りである)

ドクターの数を増やしたり開院時間の延長もありえるが、それをすると共に私の理想とする診療内容から遠ざかる気がする。

確実に自分で把握できる人数としっかり向き合うためには、現在の形態を続けるのがベストと思っている。

また、いつまで土曜セミナーを続けるのかは、スタッフにも関心のあるところのようだ。

セミナーは、私のライフワークである。

患者教育は、疾患の予防でもありと共に当クリニックの特徴でもあり、存在する意義でもある。

セミナーはもちろん参加費は無料であるし、かつスタッフもボランティアである。

クリニック勤務は、普通の会社員とは異なる。

医療施設に所属する一員として、自分の役割をしっかり自覚してほしい。

あそこのクリニックに行けば、何とか相談にのってもらえる、話ができる、気分がはれる・・・。

そんな存在になれば、うれしいとおもっている。

だからセミナーを通して、クリニックを知ってほしいしご自分の健康管理にも役立ててほしい。

よってこのセミナーは私の身体が続くかぎり、終わることはないのである。

他のクリニックとは違う個性をもつ、来院する全ての女性のためのクリニックをめざして。

クリニックのご案内

診療内容と方針

料金表

スタッフ紹介

女性外来コラム

みえこ院長エッセイ

トップページへ

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved

[クリニックのご案内](#)[診療内容と方針](#)[料金表](#)[スタッフ紹介](#)[女性外来コラム](#)[みえこ院長エッセイ](#)[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第31回 モンスターパシエント

イングリッシュパシエントではない。

先日テレビ番組で、モンスターパシエントが病院でスタッフやドクターに暴言や暴力をはいて困っていると言っていた。

パシエントから見れば、きっと一理はあるのだろう。

待ち時間がながい、体調が悪い、スタッフの態度が悪い、料金に納得がいかない。

世の中、思いどおりにいかないことや納得いかないこともしばしばあるものだ。

だが逐一そのたびに暴力をふるい、暴言をはくのは考えものである。

意見箱もあるし、気に入らなければ他にもたくさん病院はあるのだ。

悲しいかな、このようなモンスターパシエントはどこに行っても同じような行動をとるものだ。

してみれば、やはり当の本人に問題がありそうだ。

このモンスターパシエント対策に、医師会は頭を悩ませている。

最近、私もそんな経験をした。

このモンスターパシエントは、電話魔である。

クリニックのドアからでると、すぐさま罵倒と汚いことばで頻回に電話をしてくる。

強迫観念もあるらしく、やたら心配症で人間不信でもある。

おかげで受付嬢は胃痛を訴え、私も気分が落ち込んでしまった。

いつもの笑顔で、外来にでられない日が続いた。

診療行為をしている私やスタッフには、対処しがたい事態だ。

こんなときは、第三者に任せるのが一番だ。

その筋に相談をし、自分の行動や処置に自信をもった。

モンスターパシエントに負けてはいけない。

事なかれ主義で終わらせる方法もあるが、このモンスターは他でも同じ事を繰り返すだろう。

私は断固つよく戦わなければならない。

自分の正しいと思った行動を貫く決心をした。

[←目次へ戻る](#)



東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Miko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第32回 閉経後の性

婦人科外来には、10代から80代まで幅広い年齢層の方が訪れる。しかし圧倒的に多いのが20代から30代の女性である。

60代になると、やや気恥ずかしい面持ちでみえることが多い。診療を担当する私は、中年の女医。

私が自負するのは、やはりそれだけ人生経験が長いということだ。ただ安穩と、お嬢様道を歩んできたわけではない。

恋愛・結婚・出産・育児・更年期。

さらに追加すれば、不登校・DV・離婚・癌とさまざまである。

私は、大卒後に医学部に再入学したため医者業はまだ25年足らずであるが。この期間、更年期以降の性の問題についてときどき出会うことがあった。

未婚（処女）女性が、既婚であった男性と結婚する場合。

女性側にとっては、性生活は深刻である。

既婚だった女性が、年下の男性と再婚する場合。

これは女性側からの思いやりの気持ちで、自分を婦人科の門をくぐらせる。

セックスレスの熟年カップルが、夫の浮気をきっかけに自らのセックスを見直そうとする場合。

女性の受け入れ態勢を改善しなければならない。

これらの生活の中には、快楽を感じる前に、常に女性側の痛みが伴う。

これを改善するのが、私、中年女医のしやし加減なのである。

女性の性の味方として、闘志がもえる瞬間である。

ホルモン投与・膣の拡張・潤滑剤と様々な方法でとりかかる。

この治療はまずまずの成績を収めてきた。

ときに患者さんのご主人から、感謝のお言葉を伝言されることもある。

女性の味方として、うれしい限りである。

年齢と、恋愛やセックスは関係ない。

人間にとって恋愛やセックスは不可欠であり、いつまでもきらきらした人生を送るための必需品である。

[←目次へ戻る](#)

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第33回 飛行機の中の騒音

時々、空を飛ぶ。

短時間から長時間までいろいろだ。

最近とくに不調なのは、着陸時におこる頭を刺すような頭痛だ。

助長因子は、どうも距離とアルコールのようだ。

さらに加齢も加わっているように思う。

10時間以上のながいフライト。

足はむくみ、全身だるく、腹部は膨隆し全身不快だらけだ。

はやくさっぱりとシャワーをあび、広いベッドで全身を伸ばしたい。

元気に離陸し気持ちよくアルコールをのみ、さて着陸態勢という時に頭痛がおそってきた。

ずきずき、キーンと頭の数ヶ所からおそってきた。

着陸して機内を去るころには、随分治っていた。

やれやれ・・・。

自分でいろいろ原因を考えてみた。

気圧の急激な低下とアルコールによる脳血管拡張作用、その後に訪れる着陸時の気圧の上昇。

脳血管は、すみやかにその変動に対応できず相変わらず広がったままの状態。

それこそ脳圧更新状態だ。

だったら血管収縮作用のある麦角剤が有効か？

あれこれ考えてみる。

つぎはアルコールをひかえよう。

ああ、でも頭痛はおそってきた（少し軽い）。

アルコールは誘発因子ではないが、増悪因子にはなりそうだ。

やはり老化が身体の順応性をにぶくしているようだ（悲しい）。

今回はたかだか2時間のフライトで、頭痛がおそってきた。

そんなに強くはなく、回復も早かった。

水平飛行中は、快適な空のたびだ。

しかし後方から幼児？の泣き声が聞こえてくる。

その内前方からも・・・。

なかなか止まない、ときに大きくときにあきらめたように。

一昨年のスタッフ旅行では、3～4時間ずーと泣きつづけた幼児がいた。

後で聞いたのだが、発熱していたようだった。

乳幼児が、フライトにたえるのは時間に関係なく大変なことだと思う。

不快を表現する唯一の方法は、CRY。

回りの乗客や両親も、迷惑・面倒・陳謝さまざまな思いだろう。

しかし最も辛いのは、言葉で表現できない当の本人だ。

全身の声と力を振り絞り、おもいきり表現しているのだ。

いやだ、いやだ・・・、と。

もしかしたら私のような頭痛を感じているのかも知れない。

言葉の話せない乳幼児の乗車時は、体温測定と脳波の計測をお勧めしたい。

さらに乳幼児室たる特別シートがあっても、いいのではないだろうか？

[←目次へ戻る](#)



〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[【e-mail】 dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp](mailto:dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp)

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第34回 How to 処方

OC（低用量ピル）が、日本で解禁され8年。
それでも生殖年齢に対するOCの服用率は、わずか1.9パーセントである。
諸外国に比べると雲泥の差である。
東京におけるOCはこの標準に追いついているが、
西の東京都ではわずか1.0パーセントであるという。
東京に比べて歴史の古い京都では、
なかなか新しいものの普及が進まないらしい。

私のクリニックは開院3年5ヶ月（H20.4現在）。
始めの1ヶ月目のOCは、わずか3枚。
3年4ヶ月後（H20.3）には、月630枚と飛躍的に伸びている。
この間、OCを服薬した人はおよそ930名。
総外来患者数は、5000名。
生殖可能年齢は、およそ60パーセント（妊娠と不妊を除く）から考えると3000名中の33パーセントがOCを服用したことになる。



なぜこのようにOC処方が伸びたか、
そのノウハウを話しに西の都に行ってきた。

- 1) OCの説明方法
- 2) スタッフとの協力 スタッフからの説明
スタッフからのお伺いコール
- 3) OCのカウンター渡し
- 4) 緊急避妊用ピルとOCのセット渡し
- 5) 人工妊娠中絶後のOCセット渡し
- 6) 販促資料の活用
- 7) 当院土曜セミナー



- 1) 2) について

DrによるOCの種類と服用開始日の決定をすると、
スタッフにバトンタッチ。

スタッフから、患者さんへ説明が行われる（なごやかな雰囲気）。

またOC服用後およそ1週間で、患者さんにむけスタッフからお伺いの電話をかける（不安の解消と信頼の獲得）。

このコールが断られたことは、ほとんどない。

- 3) 飲みなれた患者さんには、受付からの処方ができる。

患者さんは予約なく来院し、

血圧測定のみでOCを求めることができる（再診料なし）。

このカウンター渡しのカルテは、

毎夜Drによるカルテチェックがありコメントを記載する。

次回患者さんが来院時、必要があればスタッフからDrの伝言が告げられる。

これにより、最低年に一度の患者さんとの面接が実現するわけだ。



とにかく多くの患者さんの理解を得る為には、スタッフとの協力体制が不可欠である。

丁寧に説明してもまた時間のゆとりがない場合は、毎月の土曜セミナーの参加を勧める。

セミナー内容のほとんどには、OCが盛り込まれている。このようにしてOCの効用を十分に説明することができ、OCを効率よく広めることができた。

今回の私の話は開業医とそのスタッフを対象としたものだが、古い流れの西の都で次世代Drがどこまで頑張れるか・・・。



話した後、汗をびっしょりかいた自分に対して<きつと・・・熱弁のため？>と自ら納得した京都ビジネスツアーであった。

[←目次へ戻る](#)



〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第35回 子作りと子育て

私のクリニックには、たくさんの妊娠したい人または妊娠した人がくる。赤ちゃんをつくって妊娠するという事は、人の自然な気持ちであり生理でもある。愛する人と一つになりたいという思いは結果として赤ちゃんという形で現れるのではないだろうか？この子づくりが義務になると、かなりのストレスになるし本来の気持ちと違った感情になるのではないかと？

血縁を残す為の子供
 財産を受け継ぐための子供
 家業存続のための子供
 周囲から（とくに両親）希望による子供

複雑な話めきで、患者さんはやってくる。そして付き合いが長くなってくると、内情がわかってくる。私はこの子作りと胎児の発育過程の健診（妊婦健診）が大好きだ。なぜなら子作りが成功したときの喜び、又赤ちゃんの発育を両親とみるときの喜び。そして生まれたあとは、二つ身になってクリニックを訪れてくれるときの喜び。このように、この3年半で何組の喜びの顔に出会えたことか。

一方妊娠はしたものの流れてしまったり、また赤ちゃんの異常で悩んだ人もいる。悲喜こもごもの人生だ。クリニックには毎年盆暮れに、絵葉書が送られてくる。もちろん赤ちゃんをプリントした幸せ絵葉書だ。そんな時、世の中の為になっていると実感できる瞬間である。

[←目次へ戻る](#)


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第36回 素敵なおしゃんそん

時々、何かにはまる。

今回は、おしゃんそんシンガーだ。

きっかけは、姉に誘われたことだった。

新宿のとあるおしゃんそんパブのドアを開けて入る、薄暗い室内の二方向になにやら沢山の絵画がかかっていた。

店内には、数人の客とスタッフがいた。

誰が誰だかわからない。

その中の一人が、W. K 63歳おしゃんそんシンガーだった。

年齢より若づくりだが、お酌するその姿はまさに店主そのものだった。

ショウタイムが始まるまで、おのおのお客はカラオケに興じている。

午後10時、ライトダウン今までは比べものにならない程ドラマチックなバックミュージックがスタート。

歌と語りのドラマが始まった。

店主が、もの憂い迫力のあるスターに変身した。

私は、まるで舞台を見ているように、おしゃんそんのドラマに吸い込まれていった。

そしていつの間にか、あふれる涙が止まらない。

私だけでなかった、隣・まえ・横みな同じような状況だった。

あれから数えて3回、パブに通っている。

(たいして多くはないが・・・)

まるで舞台を見ているような彼のおしゃんそん。

鳥取や静岡、名古屋等全国から皆、集まってくる。

彼らは、彼のとりこになってしまっている。

こんな魅力的な63歳は、あったことない。

今私は、宝塚ミュージカルの時のようにこのおしゃんそんにはまっている。

自家用車の中ではいつも、私はおしゃんそんのヒロインに浸っている。

そして口ずさむ。

私にも歌えるかしら・・・。

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[\[e-mail\] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp](mailto:dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp)


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第37回 くうたら生活、人生のエネルギー

学生の頃・・・私には学生時代（大学）が10年間もあった。

夏休みに実家にもどって過ごす日、よく母に言われた。

〈目が、くさらない?〉と。

なぜなら昼または昼過ぎまでぐうぐうと、ふとんの中で寝ていたからだ。

友達たちは、既に社会人になっていたり帰省の日が合わなかったり私は実家にいてもすることがない。

自分でもぐうたらと思って過ごした日々が延々とつづいた。

10年の眠りから覚めたのは、この医療の世界に入ってからだった。

大学の医局にはいり、研修医生活とママさん業（既に2歳の娘がいた）そして少しばかりの奥さん業。

研修医とは、人にあらずという生活をしいられた時代で患者さんの微熱についてほとんど追求されるが、研修医の高熱は這ってでも来いという風だった。歯を食いしばって頑張った。

母に言われた言葉〈ゆっくりやっていきなさい。〉

しかしゆっくりやらなかった、ペースを落とさず皆とおなじに働いた。

当たり前なことだが、しわ寄せは家庭や子供にかかってきた。

それから数年・・・家庭は崩壊、子供にもストレスがかかっていった。

それでも子供たちは、曲がりなりにも自分の道を見つけ歩みだした。

私もハードな大学病院の生活を卒業し、はれて開業の運びとなった。

そして4年、今は水を得た魚のように開業医の生活にどっぷりはまっている。

しかし生活は優雅とは程遠く、頼まれたパートの検診、大学病院の外来、保健センターの外来、はたまた実家（群馬県）の病院の外来。

そして2コマの英会話、水泳にテニス、歌劇と飲み歩き。

休む時間がない。

いろいろゴーイングマイウェイで、突っ走ってきた。

私の人生の初期のあのまったりとした時代は、いったい何だったのだろうか？

今日のためのエネルギーの蓄積期間だったのだろうか？

この道を歩んできて、決して間違っていないと思った瞬間は・・・

子供たちの尊敬する人が、〈お母さん〉と聞いたときからだ。

そして昨日も今日も走り続ける、周りが言う。〈少しは休んだら?〉〈年を考えたら?〉等々。

でも私は、止まった時が人生の終点のような気がする。

だからまた明日から走り始める。

[←目次へ戻る](#)



〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第37回 脳細胞について思う

うれしい、楽しい、心地よい、いとしい、悲しい、辛い、温かい、冷たい、嫉妬、ねたみ等々、全てがこの頭の中の脳細胞で感じている。

肉体は全てを感じる末端臓器であり、信号をキャッチして脳細胞へとおくる。

アロママッサージをうける・・・心地よい、滑らかで温かい手が背中をさする。

脳細胞が心地よく、眠りの世界に入っていく。

美味しい飛騨牛の焼けるにおい・・・食欲をそそる。

箸でつまみ、舌の上のにせる。

ジワと肉汁としょうゆの香ばしさが絶妙な味である。

<うまい>と、脳細胞が言う。

患者さんと話す。この両手で診察をして、また話をする・・・納得をして、安心顔の患者さん。又の来院を約束してドアを閉める。脳細胞も満足している。姉夫婦との再会。義兄から第一声<肥った?>・・・がっかり、私の脳細胞は落胆して納得し、そして新たな目的にむかって努力を希望している。<やせよう>

この肉体は、現世のある一定期間だけの所有物であり借り物にすぎない。

そして数十年後には変化し、老化・無に帰してしまう。

されどこの肉体を介して、脳細胞は全ての感覚をとらえることができる。

逆に肉体を変えたり、飾ったりして満足を得ることもする。

またその顔(目)の中から、全ての情報を読み取り恋愛や友情や親しみを感じることができる。

肉体の病気が精神をむしばむことがあり、その逆もありうる。

たかが肉体、されど肉体だ。

肉体が減びた後、脳細胞の記憶はいったいどこにいくのだろう？

[←目次へ戻る](#)


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第39回 スタッフとともに

これで三回目。

今年は韓国に行ってきた。

開院時のスタッフ数はわずか6人だったが、今はその倍の人数が登録している。

顔ぶれも随分変化したが、何とか4年が経とうとしている。

そのメンバーの中から家族をふくめた延べ13人がツアーのメンバーだ。骨付きカルビを食べて、ソウルの町を歩くのが今回のツアー。

日々忙しく主婦業と仕事をこなしているスタッフにとって、年に一回の海外ツアーは楽しみでもあり気分転換でもあり来年へのモチベーションとなるはずだ。

クリニックでのツアーは、家族同伴でOKだ。

到着の日は、現地の知人に韓国懐石店を案内してもらい、見晴らしのよい山の上までドライブという接待を受けた。

二泊三日の駆け足ツアーのため、なか日は朝8時45分から夜の十時までぎっしりスケジュールが詰まっていた。

昌徳宮、仁寺洞そして南大門。

夕方、一次解散が明洞（ミヨンドン）でありホテルまで個々に帰宅したが、帰るまで必死だった。

重い荷物（買い物）と疲れと始めての韓国、とくにいたる所にある判読困難のハングル文字のためだ。

しかし韓国人のガイド嬢は、気さくな商売気を感じさせない良い人だったし、町行く人はまさに私たちとそっくりだった。（言葉さえ聴かなければ）ホテルは最高で、ウエルカム以外にフリーのミッドナイトカクテルが付いていた。

ディナーに選んだ焼肉屋はソウルーのお店だった。

タクシー料金は、リーズナブルで日本とは比較にならないほどの安さだった。そういえばバンコック（タイ）のタクシーも随分と安かった。

駆け足ツアーの最終日は、朝食をたらふく食べた後早めに空港に着き待機。

ゆっくりと又もショッピングの品定めだ。

帰りの飛行時間はたったの二時間半。

なんと近い外国だろう。

同じ帰国便に韓国人の若者が5～6人乗っていた。

まるで隣町にショッピングに行くような感覚のグループだった。

秀吉の時代よりもっと昔から、韓国と日本は深い関係がありその上に成り立った関係だが、今どきの若者には、たった今だけの感覚しかないのだろう。こうして訪れている我々の一部もそんな軽い気持ちしかないのであるから。

<韓国って、いいですね。又来年も来ましようよ。> 誰かが言った。

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved



みえこ院長エッセイ

第40回 繰り返す歴史

個体発生は系統発生を繰り返す。
 これは生物の授業で習ったことばだ。
 何事も大なり小なり、繰り返しのことが多い。
 小鳥は親鳥をみて、成長し学ぶ。
 弟子も親方をみて学びまたその技を盗んで、一人前になっていく。

クリニックのご案内

診療内容と方針

料金表

スタッフ紹介

女性外来コラム

みえこ院長エッセイ

トップページへ

私の祖母は、結婚してから医者になり祖父の医院の診療を手伝っていた。
 この間に三人の子を生み、育てた。
 つまり医者になる前、学生中、卒業後に一人ずつ生んだわけだ。
 もちろん随分その頃では、飛んでる女性だったと思う。
 往診の時、祖父は馬にのり、その内乗用車になった。
 祖母はスクーターにのり、その内乗用車になった。
 その孫である私。
 一度、医者になる道をあきらめ社会に出てから、再度医学部に挑戦した。
 再挑戦というのは、モチベーションが上がるものだ。
 短時間の受験勉強だったが、一生で一度の集中力を発揮した。
 首尾よく合格の知らせをもらった。

私は四人姉弟。
 私が最後であったが、みな姉弟が医者になった（弟の後に私が医学部を卒業した）。
 その子供たちは、あわせて七人。
 そして皆、医者にはなっていない。
 今年の夏、娘が言った。（すでに社会人四年生だ。）
 <医者になりたい。>
 あれ・・・・・・・・。

数カ月後、彼女は医学部編入試験に挑戦した。
 編入試験は、面倒なたくさんの学科がない。
 語学試験とインタビューそして医者になるモチベーションの面接だ。
 ななんと、彼女は見事に合格した。
 受かってしまい、本人はうれしさ半分、不安半分。
 私もうれしいが、半分は心配。
 なぜなら、この道はナマハンカな道ではないから。
 私はこの道に来るために、どんなにたくさんの努力をし犠牲を払ってきたことか。

[←目次へ戻る](#)



〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第41回 アンチエイジング（ライムライトを使って）

ここ板橋に開業して、はや5年になろうとしている。

私の年齢も50台の後半に入った。

よる年波の変化は、さすがにやってきたようだ。

疲れて帰った夜、鏡の中の顔、その中のシワ。

ため息・ため息・ため息。

気持ちは若いつもり、気力も充実、若者と机を並べての英語のレッスン、水泳・テニスも思いっきり動く、疲れは感じない(?)。

しかし年齢の変化は来ている。

昨年、あるセミナーがきっかけで、アンチエイジングのシミ取りに興味をもった。

週刊誌によく載っている<メスを使わないシミ取り>。のようであった。

レーザー光線の中で、色素に反応する波長を選択的に病変部（しみや毛細血管等）に照射し細胞のターンオーバーを促進することにより、その部を浮き上がらせクラストとして脱落させる方法だ（ライムライト）。

あわせて皮膚全体のターンオーバーも亢進させるので肌もしっとり回復する。

数年前に所属していたクリニックでも、美顔の器械があったがあまり興味が持てなかった。

今、自分自身を含み大変興味ある器械になってしまった。

アメリカ直輸入のため、少し高いが若返りには代えられない。

ライムライトを全顔に照射すると、ゴムではじかれたような軽い痛みがある。

その一週間後、ターンオーバーの高まった細胞が浮き上がりクラストとして剥がれ落ちる。

この施術を2～4週間ごとに5～6回、その後は3ヶ月ごとに維持療法をお勧めする。

シミ以外の皮膚にも、若返り効果がみられる。

なんとすばらしい技術。

産婦人科診療のかたわら、細々とライムライトの照射を行っている。

私の受けたい治療は、多くの女性たちも希望していると思って。

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[\[e-mail\] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp](mailto:dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp)


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第42回 オリオン座をみて

夜、ベランダに出てみた。

秋も深まり、深夜はめっきり寒くなってきた。

その分、夜空の星は美しくクリアーに見える。

視野の中央には、きんせいのとれた明るいオリオン座が<私を、見て。>と言わんばかりにひかり輝いていた。

一番思い出に残っているのは、そう田舎の庭で母と見たオリオン座だ。

あの時は1～2月の真冬だった。

その年の3月に、私は結婚式をひかえていた。

更に前月の2月には、再挑戦である医学部への入学試験も待ちかまえていた。

受験準備期間は、トータル2ヶ月間。

とにかく短期集中のハードスケジュールで、勉強に没頭した。

勉強・勉強・勉強・・・トイレ・食事・入浴・勉強・勉強・勉強・・・

入浴は、しばしば母と一緒にだった。

母家から病院（同じ敷地内にあり、廊下でつづいていた）の外廊下を歩いて風呂場までいった。

まるでお銭湯気分で、着替えを片手にスリッパの音をたてながら肩を並べて歩いた。

その真冬の空には、オリオン座がいつも輝いていた。

乏しい私の知識と経験からは、カシオペヤとオリオン座くらいしか判別できなかったが。

寒い外廊下をあるく二人の印象が、私の思い出としてまるで他人の姿のように残っている。

あの頃の、ガッツと未来への夢と希望。

不安と戸惑い。

そして優しく導き、お手本を見せてくれた父と母。

私をバックアップしてくれた花婿。

もう、かれこれ33年前のことだった。

(H.21.11)

[←目次へ戻る](#)



みえこ女性クリニック
婦人科・産科・内科

〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第43回 テニスでストレス解消

最近はや、テニスにはまっている。

2年前、近くのテニス教室に入会した。

7～8ヶ月過ぎたところで、クラブに移籍した。

もちろん、たくさんテニスをする為だ。

クラブではすぐに、穏やかな先輩やおもしろいおじ様たちとお友達になり、時々お相手をしていただいている。

そこでは自由にテニスができる反面、既存のグループがありその周りには見えない壁が存在している。ただ多くのクラブで同じような状態と聞いたが。

- 1) 女性同志のグループ
- 2) コーチ風の男性と女性たちのいくつかの組み合わせ
- 3) 気ままな自由人
- 4) 自由人同志の結びつき（見えない壁はない）

常に専属コーチが、1～2人いるので寂しく孤立することはない。私？

私は自由人そして自由人の中であそぶ。

男性たちは・・・

多くはリタイヤ組、よってお年は60歳以上。

時に70代も後半で、元気にラケットを振る。

また仕事の合間に、テニスコートにかけつけるテニス好き。

この方たちは現役組で、若々しい・・・かな？

たぶん夜間組は、日中と随分異なるキャラクターと推察する。

女性たちは・・・

多くは主婦またリタイヤ組。

子育てもひと段落という方が多いようだ。

私のような現役派は、少数と見受けられる。

朝9時にテニスコートに到着、2～4時間の幸せな時を過ごす。

自由人のおじ様たちの多くは、穏やかな時に茶目っ気たっぷりな性格である。

人生の荒波をのりこえて、更にテニスを楽しもうと、そこにいるツワモノだ。

私にはこのテニスの環境が、この上なく楽しい。

回数を重ねるごとに、地面に足のついたテニスができるような気がしている。

実は肩や膝に故障をかかえている（たぶん皆様も同じと思う）。

でも楽しい時間中や後は、サポーターグッズのお世話になっている。

精神衛生上この上なく良い時間を、テニスからもらっている今日この頃である。

[←目次へ戻る](#)



〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[e-mail] dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第44回 着物でお出かけ(学会編)

先日、学会があり招待講演としてアメリカからM先生が来日した。

<アメリカにおけるOCの歴史>というテーマだったが、私も興味あるテーマで、質問が英語でできればよいと考えていた。

というのもここ数年、英会話レッスンに励んでいたからだ。

同時に外国からのお客さんに接するのに、着物で講演に出席するのも良い考えと思いついた。

着付けも私の最近の趣味の一つだったから。

このアイデアを聞いた友人たちは、驚きとあきれの表情を隠せなかった。

一方同業の仲間は、驚きと同調?の反応だったと理解する。

なぜそのような反応なのか？

日本の歴史ある和装を正式な集まりで装うのは、ごく自然な形と思う。

正式には、紋付というわけだがそこは簡略化していただきたいところだ。



最近しばしば思うのであるが、仕事以外の友人との間に考え方のギャップを感じる。

反面、同業者の仲間達では違和感を感じない。

これはかなり困った人間になってしまったということなのか？（異世界人？）

さて、準備に3～4週間あったので英会話レッスンに励んで質問内容と発音と話し方の特訓を行った。

そうこうする内に、協力者があられ着物での出席者がもう一人ふえた。

かつていくつかの仕事上のセミナーに、和装で出席の経験があった。

しかし日本における正式な本学会においては、いままで和装の先生に出会った事がなくかつこの会は男性陣が主要な地位をしめている。

今回の試みは、パイオニア的な行動でありにわかに増えだした女性医師にたいする刺激でもあると考えた。

当日はなんと会場には、さらに一名の和装の女医が座っていた。

歓迎の精神は、やはり共通のものがあつたのだ（うれしい）。

結局、私の質問はタイムアップのため実現できなかった。

しかしM先生をおって階下のフリースペースまで行き、ご挨拶とたくさんの写真という成果が得られた。

先生には、私たちの歓迎の気持ちは伝わったと思う。

日の目を見なかった私の質問である。

OC users are only 2 percent in this country.
How should we promote the use of OC in Japan?

[←目次へ戻る](#)



〒173-0005

東京都板橋区仲宿 64-6 コスモ和光ビル2F

Tel. 03-5943-1123 Fax. 03-5943-1112

[【e-mail】 dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp](mailto:dr_mieko_1016@coffee.ocn.ne.jp)

Copyright(c) 2005 Mieko ladies clinic All Rights Reserved


[クリニックのご案内](#)
[診療内容と方針](#)
[料金表](#)
[スタッフ紹介](#)
[女性外来コラム](#)
[みえこ院長エッセイ](#)
[トップページへ](#)

みえこ院長エッセイ

第45回 元気をありがとう。

Every time I miss him.

母が元気だった頃、私たち姉弟は田舎に帰省し家族を騒がせそして東京にもどってくるのがたびたびありました。

実家にはたくさんのスタッフがいましたが、私たち姉弟は皆独立し両親のみ田舎で生活をしていました。

仕事熱心な両親が、寂しいと思っているとは露とも思いませんでした。

今私も、子どもが独立し時々帰省し家を騒がせ、すっといなくなってしまう。

この頃母の気持ちが、ずいぶん解るような気がします。

一年に1～2回のことではありますが、静かな家庭に昔の騒がしさと旋風を巻き起こしさと帰ってしまい、その後の静けさが訪れます。

主人のいない部屋は寂しい。

昨夜まで使っていたふとんや衣類が寂しそうにたたまれています。

息子は、はるか海のかなたのイギリスまで帰らなければなりません。

道中の安全を祈る母心は、皆同じでしょう。

今日もカナダで小さな飛行機が墜落したと聞いたばかりでした。

しかしいつまでも寂しがってはられません。

物は考えよう、発想の転換・・・たくさんの楽しい思い出でありがとう。

たくさんのエネルギーをありがとう。

このエネルギーを蓄えて、また明日から頑張れると思います。

寂しくなると言った息子にも、同じ言葉を贈りましょう。

あなたも、たくさんの日本の思い出を満喫して異国の地であなたの道を切り開いてください。

お互い活力となって、またいつの日かあいましょう。

H 2 3 . 8

[←目次へ戻る](#)